

2024年度 静岡県言語聴覚士会 講演会 開催

6月9日(土) Zoomを使用し、2024年度の静岡県言語聴覚士会講演会をオンライン開催しました。

10:00~12:00 講演 1「幼児の吃音とリッカムプログラムについて」

国立障害者リハビリテーションセンター病院 角田航平先生

吃音の統計的データと所見、幼児吃音臨床ガイドライン(2021)で紹介されている積極的な対応についてご講義頂きました。



先生のお話ではまず発吃年齢や改善の経過等のデータが示されました。吃音臨床ガイドラインでは各年齢での推奨される対応があり、特に5歳児では積極的な対応が望ましいとの方針が示されています。ガイドラインで紹介されている積極的な対応にはJSTART-DCMもありますが、今回はリッカムプログラムの実施法、2症例が紹介されました。

リッカムプログラムは流暢な発話をたくさん経験し、脳内ネットワークを強化し、流暢に話す力の発達支援をする行動療法的なアプローチ方法です。児の流暢な発話に対してほめる・聞く・知らせるの3種類、明らかな吃音症状に対する知らせる・言い直しの2種類の言語的随伴刺激(VC)を用います。実施に際してはまずリッカムプログラムの研修会に参加することが推奨されます。原則毎週の通院が必要ですが、重要なのは家庭での練習タイムで保護者がVCを与えること、リッカムプログラムの手続き以外に生活環境を変えないということが特徴とのお話でした。あらゆる側面におけるエビデンスが測定されており、マニュアルも数年ごとに更新されています。構音障害併存例への対応も可能な方法です。

外来時の臨床内容、言語随伴刺激の頻度、課題の難易度の設定法、練習タイムに用いる課題(ダブル・メモリーカードゲーム・キャットチョコレート・間違い探し・チラシ・雑誌)など多くの実例が紹介されました。

講義後参加者方からのビデオフィードバックの有用性、発達遅滞のある場合のVCの理解度について、成人での支援例についてなどの質問に詳細を交えご回答頂き、臨床場面での実用性の高い内容でした。現在吃音や小児領域の経験が少ない言語聴覚士からも分かりやすいとの声が複数あり、吃音の研修やプログラムに参加するきっかけや意欲を

高めるご講義でした。

13:00～15:00 講演 2 「失語症のリハビリテーション 経過に伴った変化とそれぞれの時期による介入について」

びわこリハビリテーション専門職大学 言語聴覚療法学科長 教授 種村純先生

失語症の回復傾向、言語訓練法、社会モデルからみた失語症者支援についてご講義頂きました。



失語症の改善は長期に持続するとも考えられますが、通常失語症の訓練は発症から1年以内に終了することが多く、失語症の言語機能は発症後3か月から6か月までは特に系統的な言語訓練を受けなくても改善すると言われています。そこで、特定の言語訓練の効果検討を発症後6か月以上を経過した症例を対象とし、機能回復がどのくらい持続するのかをSLTA総合評価尺度から研究で検討されたそうです。発症から数年の言語訓練を経てそれまで継続していた言語訓練を終了し1年後、失語症検査で改善していた項目の成績低下がありました。改善の順序として言語理解がなされるようになってから発話ついで書字で、言語理解が重症な例と軽度例では改善が小さいという結果が出たそうです。

言語治療については急性期・訓練前半期・後半期・フォローアップ期の時系列的展開において障害された言語知識（音韻・文字・頭語）モダリティに応じたアプローチを誤りなし学習・手がかり漸減法の手続きを用いるそうです。若年では早期の集中訓練後の社会参加支援と移行した治療の継続、中年期では集中的言語治療と並行した家族関係の支持や職業復帰に際する支援と趣味の促進、老年では地域リハサービスの利用と「できること」の発見と増進、主婦では家事能力の獲得や日常コミュニケーションの確保などが適応拡大への援助ポイントだそうです。

講義後の質疑応答では、参加者から実際に長期介入で改善した症例について、右半球の活動から改善を促進する方法としてMIT・麻雀・オセロ・囲碁・将棋・音楽療法の

併用で注意機能を上げる方法についても挙がっていました。

種村先生の実務経験と長年にわたる臨床研究結果を交えたお話は、当事者様達のたどる実情と長期的な変遷を感じられました。言語聴覚士として失語症者に対する関わり方や支援の礎を再認識出来る様なご講義内容でした。

講演会運営に対するアンケート

参加者 午前 58 人（うち非会員 8 人） 午後 64 人（うち非会員 9 人） 計 79 人
回収人数 50 人 回収率 63%

（講演会の今後の形式について）

WEB 開催が良い 36 人 72%
会場型開催が良い 1 人 2%
情勢によって対応してほしい 9 人 16%
どちらでもよい 5 人 10%

（資料の送付について）

メールでデータ便の URL が届きダウンロードできた 50 人 100%

（受講中画面共有できないことが）

あった 48 人 94.1%
なかった 3 人 5.9%

（受講中、音声がかれたことが）

なかった 44 人
あった 7 人 13.7%

アンケート（WEB 講義の感想）

- ・開始時間もとてもよかった
- ・参加しやすいので、今後も今回のように開催していただきたいです。
- ・日本全国で素晴らしい講演に手が届くシステムだと思うので、是非とも今後も継続して頂きたいです。
- ・対面とあまり変わらないと思う
- ・静岡県外在住なので、WEB 開催は有り難かったです（複数あり）。

- ・自分の予定に合わせて以前より参加しやすく助かっています。
- ・自宅で研修に参加出来るため、研修会へ参加申し込みがしやすかったです。
- ・とてもわかりやすく、聞きやすかった
- ・資料を画面共有していただくことで実際の会場だと後ろの席などで見えにくいことを防げるのでよかったです。
- ・忙しい時間の合間であっても参加でき、大変感謝しております。
- ・スムーズな進行の元、とても学びやすかったです。
- ・子育て中で移動距離を考えると会場参加はハードルが高いですが、ウェブだと子供の習い事の送迎の間に聞けるので気軽に参加できました。
- ・気軽に参加できて良かったです。
- ・資料を別に送っていただけたことが助かりました
- ・いつもありがとうございます。
- ・zoomの操作も簡単で、現地開催よりも移動することがなく、気軽に参加できると思います。
- ・大分県からの参加でした。WEB講義だったおかげで、現地開催では諦めていたであろう種村先生の講演を聞くことができました。ありがとうございました。
- ・遠くまで出掛けていくことを考えると子育て世代の方々も参加しやすく、WEB講義はやはり便利だなと感じています。
- ・初めての参加でしたが、スムーズに進行していただき安心して受講することができました。
- ・こちらの環境の問題かもしれませんが、音声途切れてしまうことが何度かありました。
- ・時間や場所の制約がなく、便利ですがたまには会場講義も違う刺激になって良いかも。
- ・進行も資料の共有も講義の音声もよく、とても上手く運営していただいていたと思います。種村先生、角田先生と遠方にお住まいの先生のご講義を拝聴しやすいのも、WEB講義のメリットだと思います。
- ・メール対応も含めて大変スムーズでした。
- ・自宅から参加出来るのがとても良い。
- ・Zoomでの講義は会場に移動しなくても良いので便利だと思います。
- ・スムーズな進行誠にありがとうございました。実技等がなければ個人的には移動の負担がなくありがたいです。
- ・移動時間がない為参加しやすいです。
- ・特に不満もなく、会場の使用料などかからない分経費削減にもなり良いのではないのでしょうか？
- ・貴重なお話を拝聴できとても勉強になりました。これからも、機会があれば参加させ

て頂きたいです。

- ・移動しなくて講義が受講できるのは助かりました。(脊柱管狭窄症で歩行が大変になってるので) 会場参加のように参加者同士の交流は図れないので、WEB 講義だけになってしまうのは問題があるかなとは思っています。
- ・今回も自分のペースで参加でき、集中して聴講できた。
- ・自宅の電波が最後のところで切れてしまい、戻れた時は終了しておりました。フェードアウトしたような形になってしまい、大変申し訳ありませんでした。

(角田先生の講義内容についての感想)

- ・リッカムプログラムを知るきっかけになりました。研修も是非受けてみたいとおもいました。
- ・なかなか積極的に介入できずにいるので、ぜひ講習を受けて取り入れてみたいと思いました。
- ・これまで経験-知識がほとんどなかったのが、今回の講演をきっかけに吃音で悩む利用者様に対して根拠を持って関わっていきたいです。
- ・具体的な練習アイテムがたくさん紹介されていて良かった
- ・自然なやり取りの中で目的に応じた発話長を引き出すことの難しさは、臨床をしていて感じます。そのため、遊び案の提示は興味深かったです。
- ・吃音の患者様をまだ担当したことがありませんが、今後担当する際には参加にさせていただきます。
- ・吃音の対応についての話を聞いたことがなかったので、大変勉強になりました。
- ・吃音についての基礎的な知識を分かりやすく説明頂き、納得できた。リッカムプログラム等、吃音への治療法をより深く学ぶための情報を得られた。
- ・臨床のことを踏まえ、お話して頂きわかりやすかったです。
- ・リッカムプログラムについて名前は知っていてもなかなか概要がわからなかったのが、知るきっかけとなりました。成人の吃音の方の訓練についても知りたいです。
- ・臨床では吃音の方と関わる機会がほとんどありませんが、とても勉強になりました。
- ・リッカムプログラムを知ることができ、また最新の話も聞くことができ勉強になりました。少しでも治療して改善できるなら、試してみたいと思いました。
- ・丁寧な講義でした。今後の臨床に直ぐに役立つ具体的な訓練方法がとても勉強になりました。
- ・成人分野で臨床を行っており、吃音の方をみる機会はほぼありませんが、リッカムプログラムは気になっていた内容であったのでこのような場で講義を受けることができ良かったです。
- ・リッカムプログラムについて、以前から興味があったので本日お話を聞く事ができてよかったです。まずは講習会に参加していきたいと思いますが、提示いただいたホーム

ページの情報を確認したいと思います。

・小児の吃音指導に昔は取り組んでいたこともあり、本日の講義はとても興味がありました。吃音の現状を知ることができ、後半は教材として使えるカードなどの紹介もあり、勉強になりました。

・普段の臨床は成人のみです。小児の具体的訓練内容が知れて良かったです。

・リッカムプログラムについて、全国協会の専門講座で受講したことがあり、もう少し詳しい話を聞いてみたかったので、講義の機会を作っていただき、ありがたかったです。

・リッカムプログラムの詳細について知ることができ勉強になりました。VCについても、どうなのかな？と疑問に思う部分があったので、それについても詳しく教えていただけて良かったです。

・吃音の疫学からリッカムプログラムの詳細まで講演頂き研修会参加への意欲が湧いた。

・リッカムプログラムを用いた報告をお聞きできて勉強になりました。

・発話を引き出す方法が参考になりました。

・成人の失語症や構音訓練にも活用できそうな所もあり、勉強になりました

・業務は成人のみですが、幼児の吃音について、発吃や自然治癒、有症率などわかりやすかったです。リッカムプログラムも具体的な練習内容を教えて頂き、子どもが興味をもちそうだと思います。

・私は間接法で吃音臨床を行っていますか基礎理論や手技は異なるものの親の関わり方や接し方など共通点も多くありとても勉強になりました。

・吃音の臨床の経験はないが、吃音の基本的な部分から幼児へのアプローチ方法について知ることができ勉強になった。

・吃音の臨床はあまり経験がないので勉強になりました。

・リッカムプログラムはまだ行ったことがないが、実際の訓練場面やVCの与え方を拝見したいと思った。

・小児の吃音について、広く用いられているマニュアルや実質的な課題内容の紹介なども交えてお話下さり、分かりやすい講義でした。

・リッカムプログラムについて初めて聞いたので導入として良かった。

・臨床に取り入れていきたい具合的なお話が多く勉強になった。

(種村先生の講義内容についての感想)

・会話の機会を作るために、周りとの環境を整えることは、1番大切であると考えます。コミュニケーションをとる機会を作ることが、社会復帰のための目標設定には重要であるので、STとして訓練だけでなくその調整のための連携(SWやOTなど)も必要であると感じました。

・長年最前線に立たれていた先生だからこそその知見やデータを拝見でき、とても勉強になりました。"

・急性期病棟のみのため回復期後のイメージが今まで少なかったですが、より早く回復していくために必要な関わりを知ることが出来ました。

・貴重なお話を聞いてよかったです。今後の臨床に活かしていきたいと思います。

・とても貴重なお話が聞けました。

・STになり2ヵ月でまだまだ知識不足なこともあり凄く学ばせていただきました。失語症の方への関わり方など考えながら介入していきたいと思います。

・失語症の方へのリハビリのしかた、回復期・生活期に向けた支援の仕方を再度学ばせていただき、ありがとうございました。

・失語症についての研究の変遷を学ぶことができた。

・年齢や病巣など様々な視点から改善の程度を知ることができ大変参考になりました。回復期を退院された後の経過はなかなか把握がしにくかったですが数年かけて回復していくことが分かり、長期的な訓練の必要性を知ることができました。

活動面ばかりに着目していましたが、今後の社会復帰やその際の心理面への影響などを考慮して、社会的にもアプローチしていく必要があることが分かりました。

・貴重なお話を聞くことができ、とても良かったです。

・訪問で勤務しているので、生活期にやっていくべき方向、できることを生活に落としこむ横にのぼしていく、といったところが腑に落ちました。また失語症者の意見を社会に代弁しているなどの大きな役割もになっていることなど頭に入れていきながら明日からの臨床に望みたいと思いました。

・失語症の方の訓練方法の考え方について大変勉強になりました。臨床に生かしていきたいと思います。

・種村先生の今までの経験を含めたお話は、とても興味深く臨床で感じていたことと先生のお話が繋がる場面があり、うれしくなりました。

・データの集計の重要性を学びました。

・現在、回復期で働いており、退院後の生活における役割を検討していくことに日々苦労しています。今回受けた講義の内容を日々の臨床に生かしていきたいと思います。

・膨大なデータと経験に基づいたお話を聞く事ができて大変勉強になりました。今は成人の言語療法からは離れてしまいましたが、2年前から家族が右片麻痺と失語症を発症しているので、経過の話は日々の実感を伴って伺う事ができました。

・ここ最近失語症についての文献を検索し、種村先生の論文を拝見したところでした。文献のみでは捉えきれなかった内容を、先生ご本人からお話をお聞きし、理解が深まりました。私は老健に勤めているため、失語症の発症から比較的時間の経った利用者へ言語訓練を行う機会が多いです。経過によって対応をかえつつ、利用者が楽しんで言語訓練を行うことができるよう、明日から取り組んでいこうと思いました。"

・多くの研究結果から貴重な知見を聞くことができ大変勉強になりました。特に職場復帰に関して、機能改善だけではなく「十分な訓練を行なったという実感」が重要だというお話は、今後の臨床で活かしていこうと思いました。

・急性期、回復期を経て、今は訪問リハビリを主にしている自分にとって、とても考えさせられる講義内容で、今後の自身の臨床への向き合い方についても勉強になりました。また失語支援事業についても触れていただき、これからの事業への取り組みに対する励みにもなりました。

・失語症者に対する長期的支援として、各期での求められる対応や生活スタイルを考慮した社会参加支援について学ぶことができました。私は今年度から回復期に入職した1年目なのですが、入職から2ヶ月、入院患者様方の退院後のご様子や生活、コミュニケーション障害によって生じる弊害についてイメージできないことが多々ありました。本日のご講義で具体的かつわかりやすいデータを提示していただき、退院後のイメージを知識的に持つことができました。今後の臨床に繋げていく所存です。

・失語症の方の回復経過の統計的データや訓練方法など多岐に渡る盛り沢山な内容で大変勉強になりました。最近では中年世代の失語症の方のリハビリをする機会が徐々に増えてきたと感じています。社会的参加にむけての情報収集や勉強、支援が不足していることを痛感しています。自分たちにできることはなにか、考え提案していきたいと思えます。

・体系的に纏めて下さっており、良いブラッシュアップになりました。

・失語症は、長い時間をかけて改善していく、というお話しが、とても印象に残りました。一方で、希望する方には頻回な訓練を提供できるとよい、というお話しがありましたが、現実には難しいことが、悩ましく思います。

・しばらく成人の領域から離れているため、貴重な学びになりました。種村先生のご講義に参加でき嬉しく思います。

・大変貴重なご講演ありがとうございました。臨床では様々な症状・タイプの失語症患者様に携わらせていただいている中で、回復過程での心情や生活への適応拡大への援助など、STとしてもっとできることはないのかと日々悩むなかで、今回のご講演を拝聴し大変勉強になりました。

・臨床で長期予後予測する際にとっても参考になる講演でした。

・失語症患者様の予後の推測に役立てたいと思いました。患者様の生活期に目が向けられるように訓練だけでなく、サポートも行えるSTになりたいと思いました。

・言語訓練はコミュニケーションをとる場になり楽しみを感じ目的になるとのことでした。維持期は、言語機能だけでなく心理面や生活機能をもっとみながらコミュニケーションをとっていかねばならないと思いました。"

・失語症の訓練効果を改めて知ることができ、失語症患者に対して少しでも力になるようなリハビリができるように努力しようと思った。

・貴重なデータに基づいた回復に関する知見と、訓練立案に関する大きなヒントをいただきました。

・今自分が患者にとってどの時点にいるのか考えながら拝聴させていただきました。まだ障害受容ができておらず、毎日バカヤローと言われながら取り組む日々ですが、頑張ります。

・失語症の長期回復について、データを基に色々な、角度から教えて頂き、重症例でも回復していくことがわかりました。

早期に家庭や社会復帰することの大切さがわかりました。言語聴覚士としてその人のニーズや聞き取り、仲を取り持つなど、失語症の方に寄り添って行きたいと思いました。

・急性期病院で勤務しており退院後の長期的な経過を知ることが少ないためとても興味深いお話しでした。

・生活期の失語症者へのアプローチとして、できることを縦に伸ばしていくよりも、同じ水準で表現可能な言語を増やしていく、という考え方の大切さを学んだ。

・失語症者の支援に社会モデルにたつ言語療法が必要というお話に大変共感しました。

・長期的な改善の可能性を知り、診療報酬や病院の方針の問題もあるが、患者さんの希望がある限り対応できたら良いのと思う（なかなか難しいですが）。

・STとしての失語症の捉え方を改めて再認識できた内容でした。根拠を持って臨床に取り組む為の自信をもてる内容でした。

・普段成人領域で仕事をしていないため、久しぶりに勉強した。たくさんのデータをお示しいただけて、分かりやすかった

アンケート（2023年6月～2024年6月まで参加した研修会・学会で、よかったもの）

・スタディラボの勉強会

・2024年5月22日開催 南薩摩地区症例検討会（ハイブリッド開催）

・6月9日の専門講座

・医療職のキャリアアップのつくり方 保田江美先生

・ST学会

・日本摂食嚥下リハビリテーション学会

・日本認知症ケア学会

・音声医学会

・聴覚医学会

・JIST 初級講習

・吃音の臨床（基礎編）

・障害のある子どものナラティブの発達と支援（大原重洋先生）